

第3章 緊急地震速報の活用実績と組織間連携

1. 緊急地震速報の配信実績

伊藤貴盛

企業端末とのリアルタイムデータ送受信を総括する愛工大ナウキャストサーバに対して、平成17年4月25日に日本気象協会経由の緊急地震速報の配信が開始された。システムの動作試験を経て、6月より企業端末に対して正規に緊急地震速報の配信を開始した。

表1は、平成17年6月4日から平成18年3月31日に配信された緊急地震速報の件数である。

月	M2-2.9	M3-3.9	M4-4.9	M5-5.9	M6-6.9	M7-	計	キャンセル	有感	最大震度
6	0	9	21	4	0	0	34	2	1	2
7	0	6	20	5	1	0	32	1	3	2
8	0	5	30	7	0	1	43	0	1	2
9	0	10	20	4	1	0	35	0	0	0
10	1	3	10	7	3	0	24	1	1	1
11	0	1	23	1	2	0	27	1	0	0
12	0	8	25	5	1	0	39	1	3	4
1	1	19	20	2	0	0	42	1	1	2
2	0	21	22	5	0	0	48	0	2	2
3	11	37	22	3	2	0	75	2	1	2

表1 各月ごとの、緊急地震速報配信数。マグニチュード別にカウントしている。「有感」は、AI-NETの観測網において有感地震として記録が得られた地震数。「最大震度」は、その中で記録された最大震度の値。

緊急地震速報の配信数はかなりの数に上るが、実際に三河地区が有感になる地震は非常に少ない。1月19日から配信基準が下げられたため、配信数が特に小さい地震について急増している。

システムの構成上、ネットワーク障害がなければ各企業端末まで1秒以内の遅延で緊急地震速報が到達し、所定の警告動作を行うことができるが、震度予測手法に内在する問題に起因する誤警報の防止が今後の課題である。

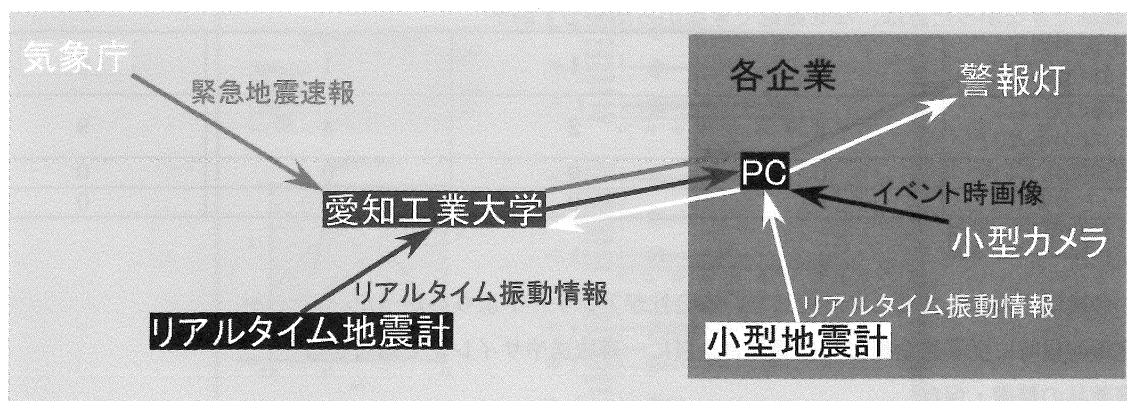


図1 システム内での緊急地震速報を含めた情報伝達